

第66回松本歯科大学学会 (総会)

■日時：2008年7月12日(土) 13:00~16:20

■会場：講義館201教室

プログラム

評議員会・総会 (2008年度)

13:00~13:50 評議員会・総会

一般講演

14:00 開会の辞 上松隆司 准教授

14:05 座長 上松隆司 准教授

1. 自己間葉系幹細胞ハイブリッド型人工骨によるインプラント周囲の骨再生に関する実験的研究

○八上公利¹, 代田達夫², 吉澤泰昌², 西村明子², 山中隆平²,
馬谷原光織³, 西澤幹雄⁴, 久保木芳徳⁵, 笠原 香⁶, 中根 卓⁶,
藤垣佳久⁶, 柳沢 茂⁷, 矢ヶ崎 雅¹

¹(松本歯大・社会歯科), ²(昭和大歯・顎口腔疾患制御外科),
³(昭和大・歯学教育推進室), ⁴(立命館大・生命科学部生命医科),
⁵(北海道大・生体理工), ⁶(松本歯大・口腔衛生),
⁷(松本歯大・総歯研・健康分析)

2. 細胞周期の停止した破骨細胞前駆細胞 (QOP) の同定

—破骨細胞形成不全マウスを用いた解析—

○荒井 敦^{1,2}, 溝口利英³, 武藤昭紀⁴, 小林泰浩⁴, 川原一郎⁵,
中村美どり⁶, 宇田川信之⁶, 山田一尋², 高橋直之⁴

¹(松本歯大院・機能解析), ²(松本歯大・歯科矯正),
³(松本歯大・総歯研・生体材料), ⁴(松本歯大・総歯研・機能解析),
⁵(松本歯大・総歯研・病態評価), ⁶(松本歯大・口腔生化)

14:29 座長 安藤 宏 講師

3. 慢性歯周炎患者におけるインターロイキン13遺伝子の一塩基多型解析

○駒崎佑介^{1,2}, 今村泰弘^{1,3}, 藤垣佳久⁴, 吉成伸夫⁵,
山田一尋^{2,6}, 王 宝禮^{1,3}

¹(松本歯大院・遺伝創薬), ²(松本歯大・歯科矯正),

³(松本歯大・歯科薬理), ⁴(松本歯大・口腔衛生),

⁵(松本歯大・歯科保存 I), ⁶(松本歯大院・病態評価)

4. *in vivo* Micro-CT を用いたラット断髄法の観察

○青山春奈¹, 大須賀直人^{1,2}, 楊 静², 張 楠³, 宮沢裕夫^{1,2}

¹(松本歯大・小児歯科), ²(松本歯大・総歯研・健康分析),

³(松本歯大院・健康分析)

5. 新しい臨床実習プログラムの試み

—築造窩洞形成時の穿孔防止対策の立案—

○土屋総一郎, 山下秀一郎

(松本歯大・歯科補綴Ⅱ)

特 別 講 演

15:10~16:10 座長 伊藤充雄 歯科理工学講座 教授

演題 「歯科医療における接着技術の展望と課題」

講師 鈴木一臣 (岡山大学 生体材料学 教授)

16:20 閉会の辞 小澤英浩 総合歯科医学研究所 所長

1. 自己間葉系幹細胞ハイブリッド型人工骨によるインプラント周囲の骨再生に関する実験的研究

八上公利¹, 代田達夫², 吉澤泰昌², 西村明子², 山中隆平²,
馬谷原光織³, 西澤幹雄⁴, 久保木芳徳⁵, 笠原 香⁶, 中根 卓⁶,
藤垣 佳久⁶, 柳沢 茂⁷, 矢ヶ崎 雅¹

¹(松本歯大・社会歯科), ²(昭和大・歯学部・顎口腔疾患制御外科),

³(昭和大・歯学教育推進室), ⁴(立命館大・生命科学部・生命医科),

⁵(北海道大・生体理工), ⁶(松本歯大・口腔衛生),

⁷(松本歯大・総歯研・健康分析)

【目的】

本研究では、培養・増殖させたイヌ由来の未分化間葉系細胞とハニカム型β-TCP (37H) を組み合わせ、細胞ハイブリッド型人工骨を作製し、人工骨をインプラント周囲に移植して骨の再生過程を形態学的に解析したので報告した。

【方法】

実験動物は5～6歳、体重12kgのビーグル犬(雌)を6頭より、それぞれの骨髓細胞を採取して、間葉系幹細胞(BMSC)として使用した。ハイブリッド体の形成は、スキャフォールドとして直径3.0mm、厚さ1.0mmの円盤状に成型されたβ-TCP(孔内径300μm, 37穴)(以下37H)を使用した。BMSCを 2×10^6 個/mlの濃度で37Hとともに骨分化培地(+/-rhBMP-2, アステラス製薬供与)で培養後SEMにて評価した。また、同条件で12時間培養した後、細胞ハイブリッド型人工骨としてインプラント埋入実験に使用した。下顎骨に5.0x5.0x5.0mmの骨欠損を形成し、同部へ直径4.0mm、長さ11.5mmのインプラント体(Nobel Biocare)を植立した。骨欠損部へ37H単独, BMSC+37HおよびrhBMP-2をそれぞれインプラント周囲に移植した。また、骨欠損を形成し、何も移植することなく閉創したものを対照とした。1-3ヵ月後、安楽死させた後、通法に従ってポリエステル樹脂にて包埋し、非脱灰研磨片を作製し術後の状態を評価した。

【結果および考察】

対照のインプラントは術後84日目においてもその表面の大部分は結合組織によって覆われていた。37Hのみを移植したインプラントでは、骨断端から37Hの表面に沿って新生骨の形成を認めしたが、術後84日目においても骨とインプラントの直接接触は一部に見られたのみで、その表面の広い範囲が結合組織によって覆われていた。BMSCを混合した37Hを移植したインプラントも骨との接触は少なく、37H単独の場合とほぼ同様の所見を呈していた。一方、rhBMP-2を添加した37Hを移植したインプラントでは、術後28日目より37Hの表面や孔内にも骨形成を認め、84日目では37H表面に沿って形成された新生骨がインプラント表面の広い範囲で直接接していた。rhBMP-2を添加したBMSCを混合した37Hを移植したインプラントにおいても、術後28日目より37H表面に沿って新生骨を認め、術後84日目では広い範囲で新生骨とインプラント表面との直接接触が見られた。

インプラント周囲に形成した骨欠損部における骨再生には37HにBMSCを混合しただけでは有効性は認められず、rhBMP-2を添加することで効果的な骨再生が可能となった。したがって、細胞ハイブリッド型人工骨に用いる細胞には未分化間葉系細胞の状態ではなく、rhBMP-2によって骨原性細胞に分化誘導させた細胞の方が骨再生には有用であると考えられる。

2. 細胞周期の停止した破骨細胞前駆細胞 (QOP) の同定

——破骨細胞形成不全マウスを用いた解析——

荒井 敦^{1,2}, 溝口利英³, 武藤昭紀⁴, 小林泰浩⁴, 川原一郎⁵,

中村美どり⁶, 宇田川信之⁶, 山田一尋², 高橋直之⁴

¹(松本歯大院・機能解析), ²(松本歯大・歯科矯正),

³(松本歯大・総歯研・生体材料), ⁴(松本歯大・総歯研・機能解析),

⁵(松本歯大・総歯研・病態評価), ⁶(松本歯大・口腔生化)

【目的】

骨髄マクロファージは、破骨細胞 (OC) への分化過程で細胞周期を停止する。我々は、細胞周期が停止した破骨細胞前駆細胞を cell cycle-arrested quiescent osteoclast precursors (QOP) と定義した。生体内では、QOP が長期間未分化状態で支持され、骨吸収刺激因子により OC に分化する。この支持環境を破骨細胞ニッチと名付けた。以上より破骨細胞ニッチが OC の形成部位を決定することが示唆された。これまで、QOP の存在は明らかとなったが、生体内における挙動については未だ不明な点が多い。本研究では、生体内における QOP を解析することにより、その分化メカニズムを詳細に解析した。

【方法】

我々は、QOP を RANK と c-Fms が陽性で、Ki 67 (細胞増殖マーカー) と TRAP (破骨細胞マーカー) が陰性の細胞と定義した。RANKL 欠損マウスおよび c-Fos 欠損マウス (破骨細胞分化に必要な転写因子 c-Fos 遺伝子が欠損したマウス) は、TRAP 陽性の破骨細胞が全く存在しない。そこで、これらのマウス脛骨における QOP の局在を、免疫組織染色にて調べた。

【結果および考察】

① RANKL 欠損マウスと c-Fos 欠損マウスの脛骨には、TRAP 陽性細胞は認められず骨髄は海綿骨で占められていた。② RANKL 欠損マウスの脛骨では、RANK, c-Fms ダブル陽性細胞 (QOP) が認められ、そのほとんどは Ki 67 陰性であった。よって、QOP への分化と骨組織への局在に RANKL は必要ないことが示唆された。③ c-Fos 欠損マウスの脛骨に QOP は認められなかった。以上より、c-Fos は、破骨細胞前駆細胞から QOP への分化、もしくは QOP の骨組織への定着に必要である可能性が示唆された。

3. 慢性歯周炎患者におけるインターロイキン13遺伝子の一塩基多型解析

駒崎佑介^{1,2}, 今村泰弘^{1,3}, 藤垣佳久⁴, 吉成伸夫⁵,

山田一尋^{2,6}, 王 宝禮^{1,3}

¹(松本歯大院・遺伝創薬), ²(松本歯大・歯科矯正),

³(松本歯大・歯科薬理), ⁴(松本歯大・口腔衛生),

⁵(松本歯大・歯科保存 I), ⁶(松本歯大院・病態評価)

【目的】

歯周病は遺伝的要因や環境要因の影響があり、特に発症関連遺伝子については未だ明確に決定されていない。近年、一塩基多型 (以下 SNPs) 解析が盛んに行われ、疾患に対する感受性や薬物に対する有効性や副作用が明らかとなってきた。そこで、歯周病に関わる候補遺伝子としてインターロイキン13を挙げ、SNPs 解析を行い検討した。

【方法】

インフォームドコンセント取得後、慢性歯周炎及びその他の疾患を有する患者を除外した健常者106名並びに慢性歯周炎患者110名を対象とした。被験者の舌上皮細胞を歯ブラシで回収し、ゲノム DNA を抽出した。PCR-RFLP 法にて解析を行った後、遺伝子型を決定し、統計処理を行うことで健常者と慢性歯周炎患者間の有意差検定を行った。なお、慢性歯周炎の診断はエックス線写真上での骨吸収の測

定 (Schei らによる骨吸収メジャー測定法) 及び CPI 指数 (code 3 以上) にて行った。

【結果】

プロモーター領域の-1510部位においては, wild type と変異を有する者間で比較したところ, $p = 0.318$ と有意な差は認められなかった。一方, 同プロモーター領域の-1111部位では, 健常者37名, 慢性歯周炎患者36名と解析の途中ではあるが, $p = 0.00025$ と有意な差を認め, 95%信頼区間では12.5という結果となった。Allele に対する頻度を調べた結果では, -1510部位においては有意な差は認められなかったが, -1111部位においては $p = 0.00016$ と有意な差を認め, 95%信頼区間では8.5という結果となった。

【考察】

白人における-1510及び-1111部位の解析は, 健常者と慢性歯周炎患者間で有意な差が無いとの報告がある。今回, 我々が解析した日本人についても-1510部位で同様の結果となった。一方, -1111部位では日本人において有意な差が認められたことから, 人種差が考えられる。今後, 現部位の解析を更に進めると同時に, 他の部位についても検討する予定である。

4. *in vivo* Micro-CT を用いたラット断髄法の観察

青山春奈¹, 大須賀直人^{1,2}, 楊 静², 張 楠³, 宮沢裕夫^{1,2}
¹(松本歯大・小児歯科), ²(松本歯大・総歯研),
³(松本歯大院・健康分析)

【目的】

小児歯科臨床では, 齲蝕や外傷にともなう歯髄処置を行う頻度が多く, 乳歯では水酸化カルシウムやホルムクレゾール (FC) 法による断髄法が実施されている。しかしながら, FC は毒性が危惧され, 水酸化カルシウムは強アルカリであるために切断面表層部に壊死層を作り, 歯髄の破壊による内部吸収が問題とされている。また, これら断髄法の評価は, 临床上の有用性から覆髄剤に関する基礎および臨床的研究が実施されているが, 多くの研究が実験動物の病理組織学的検討を行うことから, 多数の個体を実験に供している。しかしながら実験動物用の CT を用いた断髄後の経時的な観察報告はない。

今回我々は一匹の実験動物を観察可能な *in vivo* Micro-CT (R_mCT[®]) を使用し, Wistar 系ラットの断髄後の処置歯の経時変化を連続的に観察した。

【方法】

Wistar 系 8 週齢雄性ラットを使用し, 全身麻酔下にて臨床的術式に準じて断髄を行なった。断髄は通法と CO₂ レーザを応用し, 水酸化カルシウムと FC による覆髄を行った。処置後から, 連続的に R_mCT[®] で処置歯を画像観察し, 同一個体の病理組織学的観察を実施した。

【結果】

R_mCT[®] を用いたラット断髄後の経時変化を観察した結果, 覆髄剤の吸収程度, 仮封材や根尖部の透過像, 断髄面直下の不透過像など処置歯の経過を連続的に観察することができた。また, 通法の切断と CO₂ レーザを応用した症例を比較したところ, CO₂ レーザを応用した症例では, ホルムクレゾール法で根尖部の透過像や歯根膜腔の拡大が少なく, 水酸化カルシウム法では切断面直下に不透過像の出現など予後良好である傾向が R_mCT[®] 画像により判断できた。さらに病理組織的観察でも画像観察と同様に断髄面直下に硬組織形成が認められ, 象牙質シアロタンパク質やオステオポンチンを含む象牙質様硬組織であることが確認できた。

【考察】

R_mCT[®] は, 一匹の実験動物を長期間観察し断髄後の覆髄剤, 仮封材, 処置歯の経過や予後の連続的な観察が可能であり, 組織像と対応させることも可能である極めて有用な観察手段であることが確認できた。

5. 新しい臨床実習プログラムの試み

——築造窩洞形成時の穿孔防止対策の立案——

土屋総一郎, 山下秀一郎
(松本歯大・歯科補綴Ⅱ)

【目的】

歯学部卒前教育として、安全な器具の取り扱い方を指導することはあっても、事故防止の関心・意欲・態度をそれぞれ高める工夫を行った報告はほとんどされていない。今回、シミュレーションを用いた築造窩洞形成で発生した穿孔事故を示す資料を用いて、医療事故防止の態度・姿勢を身につける臨床実習プログラムを考案、実行した。実習の目標に対する学習者の評価を得たのち、これを検討したので報告する。

【方法】

本学臨床実習生を対象として、以下のような学習プログラムを考案した。

目標 一般目標 築造窩洞形成時の穿孔防止対策を立案する態度・姿勢を養う。

行動目標 ①築造窩洞形成時に穿孔が発生しうることに気が付ける(関心)。

②穿孔の発生原因を分析できる(意欲)。

③穿孔の発生防止方法を立案することができる(態度)。

方略 築造窩洞形成シミュレーションモデルを新たに作製し、臨床実習を行った。

①の達成のために自らの班で発生した穿孔症例を含む築造窩洞形成のエックス線写真を指導者が学習者に示し、学習者に穿孔事故が身近に発生することを気付かせた。

次に②の達成のために、指導者が設定した築造窩洞の良否に関する判定基準をもとに、学習者に自分たちの班で使用したエックス線写真を判定させた。③の達成のために、指導者一人が学習者たちに穿孔に関する簡単なレクチャーを行った。その後、穿孔の原因と防止対策を記載するレポートを学習者に作成させた。

評価 ①～③に挙げた行動目標の達成度について、指導者が評価すると同時に、学習者にも自己の評価を行わせた。

【結果】

6班68人の学習者がこのプログラムに参加した。学習者の自己の評価によると、行動目標①においては64人が穿孔に気が付き、評価基準を満たした。行動目標②, ③においては68人全員が穿孔発生原因を考え、発生防止法を立案、意欲・態度項目で評価基準を満たした。

【考察】

このプログラムが目標を達成するために有効であることが示唆された。

2008年度
第66回松本歯科大学学会総会

日・時 2008年7月12日(土)

総会 13時00分～13時50分

場 所 松本歯科大学 講義館201教室

1. 開会の辞
2. 会長挨拶
3. 物故会員黙祷 千野武廣 名誉会長,
中島節江, 塚本敏明
4. 議長選出
5. 審議事項
6. 閉会の辞

会議内容

第1号議案 2007年度事業報告

1. 庶務
2. 集会
3. 編集
4. 会計

第2号議案 2007年度決算および監査報告

第3号議案 2008年度事業計画

1. 庶務
2. 集会
3. 編集
4. 会計

第4号議案 2008年度予算

第5号議案 役員変更

第6号議案 その他

第1号議案 2007年度事業報告

1. 庶務事業報告 庶務幹事長／増田裕次

1) 準会員(6年生)入会説明会(5月19日)

増田庶務幹事長

入会は任意であるが、卒業後の学術活動の場として入会して頂けるよう説明した。

2) 幹事会開催

6月26日：(1) 総会資料について

(2) 役員改選について

3) 会員数

(1) 会員数 1564名

(2) 内訳

①名誉会員 21名

②新入会員 93名 (30期生：74名,
一般：19名)

③賛助会員 13社

④準会員 68名 (31期生)

(3) 退会者 109名 (4年分会費未納による退会：95名, 希望退会：11名, 物故：3名)

2. 集会事業報告 集会幹事長／山下秀一郎

1) 第64回松本歯科大学学会(総会)は、7月7日(土)開催。

一般講演は8演題、特別講演は1演題であった。

2) 第65回松本歯科大学学会(例会)は、11月17日(土)開催。

一般講演は10演題、特別講演は1演題であった。

3) 学会が主催または後援した集会を以下の表に示した。

| | 開催日 | 内 容 | 講 師 | 招待講座名 | 申 請 者 |
|---|-------|-------------|---------|-------|---------|
| 1 | 4月24日 | 大学院セミナー144回 | 中山 浩 次 | 口腔細菌学 | 藤 村 節 夫 |
| 2 | 6月26日 | 大学院セミナー146回 | 高 森 茂 雄 | 総歯研 | 宇田川 信 之 |
| 3 | 7月7日 | 総会 特別講演 | 越 智 守 生 | 歯科薬理学 | 王 宝 禮 |
| 4 | 7月18日 | 摂食・嚥下セミナー | 馬 場 尊 | 特殊診療科 | 小笠原 正 |
| 5 | 9月12日 | 大学院セミナー150回 | 藤 井 航 | 健康増進 | 小笠原 正 |
| 6 | 9月26日 | 大学院セミナー156回 | 松 尾 浩一郎 | 健康増進 | 小笠原 正 |
| 7 | 9月28日 | 大学院セミナー153回 | 村 上 広 樹 | 健康増進 | 中 田 稔 |
| 8 | 10月4日 | 大学院セミナー157回 | 栗 原 徳 善 | 総歯研 | 高 橋 直 之 |

| | 開催日 | 内 容 | 講 師 | 招待講座名 | 申 請 者 |
|----|--------|-------------|-----------------|--------|---------|
| 9 | 10月5日 | 大学院セミナー154回 | 内 藤 徹 | 歯科保存学I | 吉 成 伸 夫 |
| 10 | 10月17日 | 大学院セミナー155回 | 齊 藤 一 郎 | 口腔生化学 | 宇田川 信 之 |
| 11 | 10月25日 | 大学院セミナー158回 | 森 克 栄 | 口腔生化学 | 宇田川 信 之 |
| 12 | 10月29日 | 大学院セミナー148回 | Peter Milgrom | 健康増進 | 穂 坂 一 夫 |
| 13 | 11月5日 | 大学院セミナー160回 | 北 浦 英 樹 | 総歯研 | 小 林 泰 浩 |
| 14 | 11月17日 | 例会 特別講演 | 島 田 昌 一 | 総歯研 | 金 銅 英 二 |
| 15 | 12月7日 | 大学院セミナー162回 | 洪 川 義 幸 | 総歯研 | 増 田 裕 次 |
| 16 | 1月22日 | 大学院セミナー163回 | G. R. Mundy | 総歯研 | 高 橋 直 之 |
| 17 | 1月30日 | 大学院セミナー161回 | 村 上 伸 也 | 歯科薬理学 | 王 宝 禮 |
| 18 | 2月5日 | 大学院セミナー164回 | 古 川 洋 和 | 健康増進 | 中 田 稔 |
| 19 | 3月10日 | 大学院セミナー165回 | David Y. Graham | 総歯研 | 小 澤 英 浩 |

2007年度 特別講演2回, 公開セミナー1回, 大学院セミナー16回 計19回

3. 編集事業報告 編集幹事長/中村浩彰

- 1) 「松本歯学」第33巻第1号, 第2号, 第3号を発行した。
- 2) 第33巻では総説4篇, 原著12篇, 臨床3篇, 症例報告2篇, 図説6篇, 海外留学報告2篇, 大学院セミナー報告(5)1篇, 学位論文要旨, 2006年業績目録, 第64回松本歯科大学学会(総会)・第65回松本歯科大学学会(例会)プログラムと講演抄録, 2007年度松本歯科大学学会総会記録を掲載した。
- 3) 第33巻の総ページ数は415ページであった。第32巻より144ページ増であった。
- 4) 編集会議は2007年5月16日(水), 8月21日(火), 12月19日(水)の3回開いた。

4. 会計事業報告 会計幹事長/浅沼直和

- 1) 会費徴収について
 - (1) 学内会員 10月給与からの引き落としにて徴収→10月
 - (2) 学外会員 雑誌「松本歯学」発行時に個別に徴収→7月, 12月, 3月
 - (3) 賛助会員 雑誌「松本歯学」発行時に各社に請求→7月
 - (4) 準会員費 6年生の任意入会により, 会費徴収→7月
- 2) その他
 - (1) 広告掲載料請求
雑誌「松本歯学」への広告掲載料請求→

雑誌発行時7月

- (2) 論文超過料金請求→「松本歯学」雑誌発行時

第2号議案 2007年度決算及び監査報告

会計幹事長/浅沼直和

- 別紙 松本歯科大学学会2007年度決算書及び2008年度予算書
- ・資金収支計算書及び2008年度予算書
 - ・貸借対照表
 - ・会計監査報告書

第3号議案 事業計画

1. 庶務事業計画 庶務幹事長/増田裕次

- 1) 準会員(6年生)入会説明会
4月25日(金)実施済み 増田庶務幹事長
入会は任意であるが, 卒業後の学術活動の場として, 入会して頂けるよう説明した。
- 2) 幹事会開催 6月25日(火)
 - (1) 総会資料について
 - (2) 役員改選, 変更について

2. 集会事業計画 集会幹事長/山下秀一郎

- 1) 第66回学会(総会) 7月12日(土)
- 2) 第67回学会(例会) 11月8日(土)
- 3) 特別講演ならびに公開講座 4回
- 4) 大学院セミナー後援 30回

3. 編集事業計画 編集幹事長/中村浩彰

- 1) 「松本歯学」第34巻1, 2, 3号を発行する。
- 2) 学会員に総説, ミニレビューの執筆を依頼する。
- 3) 編集会議を年度内に3回開く。
- 4) 学位論文を掲載する。

4. 会計事業計画 会計幹事長/浅沼直和

- 1) 会費徴収について
 - (1) 学内会員 10月給与からの引き落としにて徴収→10月
 - (2) 学外会員 雑誌「松本歯学」発行時に個別に請求→7月, 12月, 3月
 - (3) 賛助会員 雑誌「松本歯学」発行時に各社に請求→7月
 - (4) 準会員費 6年生の任意入会により, 会費徴収→7月
- 2) その他
 - (1) 広告掲載料請求
雑誌「松本歯学」への広告掲載料請求→雑誌発行時7月
 - (2) 論文超過料金請求→「松本歯学」雑誌発行時
 - (3) 大学院生, 学位論文掲載料の請求
雑誌「松本歯学」印刷制作費として支払い後, 学会から各著者に実費を個別請求。

第4号議案 2008年度予算

会計幹事長/浅沼直和

別紙

第5号議案 役員変更

1. 名誉会員 新任: 塩島 勝
退任: 千野武廣
2. 幹事 庶務幹事/新任: 田口 明
退任: 加藤一誠, 塩島 勝
集会幹事/退任: 高橋慶壮
3. 評議員 八上公利, 松尾浩一郎
役員の任期は2009年度まで

第6号議案 その他

2008年度役員

| | | | |
|------|--|--|--|
| 名誉会長 | 矢ヶ崎 康 | | |
| 顧問 | 矢ヶ崎 雅 | | |
| 名誉会員 | 橋本京一 丸山 清 今西孝博 恩田千爾 野村浩道 橋口緯徳 和田卓郎 枝 重夫 鈴木和夫 川原一祐 原田 實 前橋 浩 安田英一 西連寺永康 近藤 武 甘利光治 太田紀雄 笠原 浩 出口敏雄 廣瀬伊佐夫 塩島 勝 | | |
| 会長 | 森本俊文 | | |
| 副会長 | 小澤英浩 中田 稔 | | |
| 庶務幹事 | ○増田裕次 王 宝禮 音琴淳一 黒岩昭弘 高橋直之 田口 明 長谷川博雅 吉澤英樹 | | |
| 会計幹事 | ○浅沼直和 笠原悦男 古澤清文 宮沢裕夫 山田一尋 | | |
| 編集幹事 | ○中村浩彰 井上勝博 宇田川信之 小笠原 正 岡藤範正 川上敏行 金銅英二 倉澤郁文 澁谷 徹 柳沢 茂 山岡 稔 吉成伸夫 | | |
| 集会幹事 | ○山下秀一郎 伊藤充雄 栗原三郎 佐原紀行 平岡行博 山本昭夫 | | |
| 監事 | 藤村節夫 鷹股哲也 | | |
| 評議員 | | | |
| | 浅沼 直和 伊藤 充雄 井上 勝博 | | |
| | 岩崎 浩 上松 隆司 宇田川信之 | | |
| | 王 宝禮 大須賀直人 小笠原 正 | | |
| | 岡藤 範正 小澤 英浩 音琴 淳一 | | |
| | 笠原 悦男 笠原 香 加藤 隆史 | | |
| | 川上 敏行 熊井 敏文 栗原 三郎 | | |
| | 倉澤 郁文 黒岩 昭弘 小林 泰浩 | | |
| | 金銅 英二 佐原 紀行 柴田 幸永 | | |
| | 澁谷 徹 高橋 直之 鷹股 哲也 | | |
| | 田口 明 富田美穂子 中田 稔 | | |
| | 中村 浩彰 永澤 栄 長谷川博雅 | | |
| | 服部 敏己 平賀 徹 平井 要 | | |
| | 平岡 行博 深澤加與子 古澤 清文 | | |
| | 藤村 節夫 穂坂 一夫 増田 裕次 | | |
| | 松尾浩一郎 宮沢 裕夫 森本 俊文 | | |
| | 矢ヶ崎 雅 矢ヶ崎 康 八上 公利 | | |
| | 安田 浩一 柳沢 茂 山岡 稔 | | |
| | 山下 秀一郎 山田 一尋 山本 昭夫 | | |
| | 吉澤 英樹 吉成 伸夫 | | |

安藤 三男 岩井 啓三 片倉 恵男
 鹿毛 俊孝 北村 博文 北村 豊
 神津 瑛 小松 正隆 佐藤 勝也
 中後 忠男 中村 千仁 林 牧
 峯村 隆一 山田 哲男

学位論文の掲載も予定されており、見直しが必要と考へます。

そこで、以下の提案を致します。

1. 論文掲載料の見直し
 一般論文（原著等）について
 - (1) 論文10P（白黒写真掲載を含む）までは学会にて負担、超過1Pにつき13,000円著者負担とする
 - (2) 写真・図面等のカラー掲載については1点目は24,000円、2点目から12,000円を著者負担とする。（2点目から半額を学会負担）
 - (3) 図面、トレス代については現在、ほとんど発生していないので廃止。
 - (4) 抜き刷り代については著者負担とする。
2. 学位論文掲載について
 - (1) 論文1Pにつき13,000円。
 - (2) 写真・図面等のカラー掲載については1点につき24,000円。
 - (3) 抜き刷り代も含めてすべて著者負担。
 - (4) 見積もりが必要な場合はその都度対応する。
3. 抜き刷り料金について
 上記1, 2を踏まえた新しい料金設定を日本スコーラで行う。
 以上、2009年度35巻から変更する。

備考

- 1) ○は幹事長
- 2) 任期は2009年度まで
- 3) アンダーラインは新規
- 4) 名誉会員および会則13条の(2)で規定された評議員以外は総会の議を経る必要はありません。

松本歯科大学学会 雑誌「松本歯学」掲載についての提案

編集幹事長／中村浩彰
 会計幹事長／浅沼直和

本学会の会誌「松本歯学」については、現在年3回発行しております。2006年度32巻からはサイズもA4版になり、ページ数、カラー写真等の掲載も増えてきました。それに伴い、昨年来より印刷制作費の大幅な増加がありました。

現在の論文掲載に関する料金規定は1999年に決められたものであり、現状にはそぐわないものとなってきました。また、本年度からは大学院生の

資金収支計算書及び2008年度予算書

2007年4月1日から
 2008年3月31日まで

(単位：円)

| 収入の部 | | | | |
|-----------|------------|------------|---------|------------|
| 科目 | 予算 | 決算 | 差異 | 2008年度予算 |
| 入会金収入 | 150,000 | 130,500 | 19,500 | 150,000 |
| 会費収入 | 6,000,000 | 5,681,000 | 319,000 | 6,000,000 |
| 論文掲載料収入 | 100,000 | 129,250 | △29,250 | 1,800,000 |
| 広告掲載料収入 | 400,000 | 408,000 | △8,000 | 408,000 |
| 受取利息収入 | 5,000 | 35,938 | △30,938 | 20,000 |
| 大学補助金収入 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 1,000,000 |
| 雑収入 | 10,000 | 51,891 | △41,891 | 10,000 |
| 前受金収入 | 600,000 | 507,500 | 92,500 | 600,000 |
| 前期末未収入金収入 | 1,000,000 | 922,025 | 77,975 | 1,000,000 |
| 期末未収入金 | △2,000,000 | △2,037,000 | 37,000 | △2,000,000 |
| 前期末前受金 | △581,000 | △581,000 | 0 | △535,500 |
| 計 | 6,684,000 | 6,248,104 | 435,896 | 8,452,500 |
| 前年度繰越支払資金 | 22,379,708 | 22,379,708 | | 20,288,793 |
| 収入の部合計 | 29,063,708 | 28,627,812 | 435,896 | 28,205,793 |

| 支 出 の 部 | | | | |
|-------------------|------------|------------|------------|------------|
| 科 目 | 予 算 | 決 算 | 差 異 | 2008年度予算 |
| 支払手数料(人材派遣) | 1,000,000 | 997,447 | 2,553 | 1,000,000 |
| 印刷費制作費支出 | 4,500,000 | 6,414,620 | △1,914,620 | 9,000,000 |
| 通 信 費 支 出 | 1,000,000 | 722,058 | 277,942 | 800,000 |
| 特 別 講 演 料 支 出 | 440,000 | 333,333 | 106,667 | 440,000 |
| 旅 費 交 通 費 支 出 | 200,000 | 92,040 | 107,960 | 200,000 |
| 打 合 せ 会 議 費 支 出 | 700,000 | 442,620 | 257,380 | 700,000 |
| 消 耗 品 支 出 | 350,000 | 318,370 | 31,630 | 200,000 |
| 雑 費 支 出 | 40,000 | 61,100 | △21,100 | 40,000 |
| 備 品 支 出 | 0 | 0 | 0 | 300,000 |
| 前 期 末 未 払 い 金 支 出 | 1,600,000 | 1,610,848 | △10,848 | 2,653,417 |
| 期 末 未 払 金 | 0 | △2,653,417 | 2,653,417 | 0 |
| [予 備 費] | 500,000 | | 500,000 | 500,000 |
| 計 | 10,330,000 | 8,339,019 | 1,990,981 | 15,833,417 |
| 次 年 度 繰 越 支 払 資 金 | 18,733,708 | 20,288,793 | △1,555,085 | 12,372,376 |
| 支 出 の 部 合 計 | 29,063,708 | 28,627,812 | 435,896 | 28,205,793 |

◎次年度繰越支払資金内訳

| | |
|-------------|-------------|
| 決済用預金 | 5,240,154円 |
| 定期預金(八十二BK) | 7,708,981円 |
| 定期預金(りそなBK) | 7,339,658円 |
| 計 | 20,288,793円 |

◎前受金内訳

| | |
|---------------|-------------------------------|
| 正会員2008年度分 | 38,500円(2007年度入金分:24,500円) |
| 30期生2008年度分 | 259,000円(3,500×74名分) |
| 31期生2008年度分 | 238,000円(2007年度入金分:3,500×68名) |
| 正会員2009年度分 | 14,000円(2007年度入金分:7,500円) |
| 正会員2010~17年度分 | 42,000円 |
| 31期生2009年度分 | 238,000円(2007年度入金分:3,500×68名) |
| 計 | 829,500円 |

◎会費収入内訳

| | |
|-------|---------------------------|
| 正会員費 | 5,145,000円(3,500×1470名分) |
| 準会員費 | 136,000円(2,000×68名分) |
| 賛助会員費 | 400,000円(10,000×40口分,12社) |
| 計 | 5,681,000円 |

◎未収入金内訳

| | |
|-------|------------|
| 正会員費 | 7,069,000円 |
| 論文掲載料 | 59,500円 |
| 計 | 7,128,500円 |

貸借対照表

2008年3月31日

(単位：円)

| 資産の部 | | | |
|------------------------|------------|------------|------------|
| 科目 | 本年度末 | 前年度末 | 増減 |
| 固定資産 | 0 | 0 | 0 |
| 有形固定資産 | 0 | 0 | 0 |
| 備品 | 0 | 0 | 0 |
| 流動資産 | 27,417,293 | 29,723,233 | △2,305,940 |
| 現金預金 | 20,288,793 | 22,379,708 | △2,090,915 |
| 未収入金 | 7,128,500 | 7,343,525 | △215,025 |
| 資産の部合計 | 27,417,293 | 29,723,233 | △2,305,940 |
| 負債の部 | | | |
| 科目 | 本年度末 | 前年度末 | 増減 |
| 固定負債 | 294,000 | 322,000 | △28,000 |
| 前受金 | 294,000 | 322,000 | △28,000 |
| 流動負債 | 3,188,917 | 2,191,848 | 997,069 |
| 前受金 | 535,500 | 581,000 | △45,500 |
| 未払金 | 2,653,417 | 1,610,848 | 1,042,569 |
| 負債の部合計 | 3,482,917 | 2,513,848 | 969,069 |
| 基本金の部 | | | |
| 科目 | 本年度末 | 前年度末 | 増減 |
| 基本金 | 0 | 0 | 0 |
| 基本金の部合計 | 0 | 0 | 0 |
| 消費収支差額の部 | | | |
| 科目 | 本年度末 | 前年度末 | 増減 |
| 翌年度繰越消費収入超過額 | 23,934,376 | 27,209,385 | △3,275,009 |
| 消費収支差額の部合計 | 23,934,376 | 27,209,385 | △3,275,009 |
| 科目 | 本年度末 | 前年度末 | 増減 |
| 負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計 | 27,417,293 | 29,723,233 | △2,305,940 |

松本歯科大学学会の2007年度決算各項について監査を行った結果、会計の収支において、適正に扱われていることを認めます。

2008年6月18日

監事 藤村 節夫 (印)
監事 鷹股 哲也 (印)